

# (株)庄内こめ工房 飼料用米の取組み

水田有効活用と畜産農家での肉質の向上、輸入飼料価格の高騰のため、平成22年度より、飼料用米への取り組みを開始

## 生産者

圃場単位に飼料用米を作付(はえぬき、ひとめぼれ、飼料用多収品種 他)  
 作業毎に日付、肥料・農薬の使用状況をカレンダーに記入し、捨て作り防止に努める  
 主食用と区別するため、収穫は主食用米をすべて収穫後、飼料用米の収穫を始める。  
 収穫後はそのまま指定された乾燥施設へ移送する。

## 庄内こめ工房 乾燥調製施設

収穫後、3か所の乾燥調製施設にて、乾燥調製を行う。

- 豚 ⇒ 飼料用玄米
- 鶏 ⇒ 飼料用玄米
- 牛 ⇒ 飼料用もみ



平成22~25年度 計451.5トン納入  
 (作付面積 計93ha)

(有)いずみ農産へ納入

飼料用玄米を**破碎**

- ↓
- フレコンにつめ、倉庫へ保管
- ↓
- エサのバルク車に破碎した玄米を入れる。
- ↓
- バルク車から飼料タンクへエサを入れる(配合飼料と飼料用米が混ざる)
- ↓
- 自動給餌ラインにエサが出る(この時も配合飼料と飼料用米が混ざる)



平成24年度 55トン納入  
 (作付面積 10ha)

飼料用玄米を契約した配合飼料メーカーの指定工場へ輸送

(工場にて破碎・配合)

↓  
 契約の養鶏農家へ(採卵鶏)



## 耕畜連携(牛へのわらの使用)

飼料用米収穫後の圃場にて、わらを丸め、牛畜産農家に納入  
 平成26年度 約 3ha (計画 5ha)



平成26年度 150トン

納入予定(もみ出荷)

(作付面積 37.8ha)

山形県農畜連携事業にて  
 畜産農家とマッチング

飼料用もみを蒸気圧ペン加工のため、委託する加工工場へ輸送

↓  
 工場にて蒸気圧ペン加工ののち、  
 契約した肉牛畜産農家へ